

# 中大の歌姫



情感たっぷりに歌う坂本沙織さん、後方は早川修平さん

# 坂本沙織

## アカペラで白門祭を彩る

中央大学アカペラ・サークル「Do it your voice!」は実力者ぞろいだ。全国の大学でもトップレベルにある。

“歌姫”と呼ばれる坂本沙織さん(文学部3年)は豊かな声量、魅せるステージで先の白門祭(多摩キャンパス)を大いに盛り上げた。

彼女ら7人のメンバー「B'b」(びーふらっと)が白門祭最終日(11月3日)の最終ステージに立った。午後6時過ぎ、夕闇が迫るなかでも中央ステージは、照明を受けてクローズアップされていた。

予定より1時間ほど遅れての登場だ。最終日とあって、出演した各団体はどこも熱演続き、予定時刻には終わらない。それでも彼女ら「B'b」の歌声を聴きたいファンはずっと待っていた。

全国の大学アカペラが実力を競う「金沢アカペラコンクール」(8月24～25日)で中大から2グループが出演した。「B'b」が特別賞。後輩の「ジョン川太郎」が銀賞を受賞した。中大アカペラの実力を強烈にアピールした。

「B'b」はその後、日本最大級のアカペライベント「JAM」(11月24日、東京・六本木)に挑戦し、第1次審査を突破。応募180組から選ばれた34組に入った。大学を飛び出し、活躍の舞台を広げている。

# ACAPPELLA

白門祭最終日はCスクエアで午前10時半からコンサートを開いた。夕刻までに3公演、どのステージも超満員の観衆が詰めかけた。観客全員に楽しんでもらうには、「入れ替え制入場」を取らざるを得なかった。関心の高さは、のちに行われた投票による白門祭「音楽・エンターテインメント部門」第1位になった。

最後の舞台となる中央ステージ。「うあ〜、いっぱいのお客さま…。」メンバーは観衆を見たあとに絶句。これまで3年間の活動を思い、武本加織さんがこの日21歳の誕生日とあって、感動・感激の波に押し寄せられているようだった。

しかし坂本さんは、そうした雰囲気とは別の世界にいた。シンガーとして、魅せるステージを務める。学生ながら胸中はプロフェッショナルである。

銀ラメのタンクトップ&ヘアバンドに照明が反射する。革のホットパンツから出たすわりとした足でリズムを取る。ラスト曲は洋楽グループの彼女らが最も得意とする「R&B Medley」だ。

アップテンポよし、朗々と歌い上げるのもイイ。別のステージでは、しっとりとしたバラードもこなした。目指すは「全部好き」と惚れ込む椎名林檎さんのような音楽活動だ。



鈴木絢香さん(左)と声を合わせる坂本さん



教室でのコンサート。左から勝瑞勇弥さん、磯野菜巳子さん、鈴木絢香さん、大貫茉莉子さん、坂本さん、鹿内宥作さん

## アカペラの魅力

坂本さんが心ひかれた「アカペラの魅力」は組織づくりにも及ぶ。メーンを歌い終わると裏方に回る。「ベース」と呼ばれる男子のボイススペースの良さをさりげなく引き出す。コーラスでは後輩のリード(メーンボーカル)に歌いやすい雰囲気をつくる。ステージの前へ出たり、後方でサポートしたり。自分を売りだし、ほかの人も笑顔にさせる。私だけがよくてもいけない、メンバーを独りぼっちにさせてもいけない。

アカペラの魅力は「ハーモニー」。それはそのまま社会で「協調」と言葉を変えるのだ。

「1年生と組むときは一步引いています」と坂本さん。さあノビノビとやりなさい、もし不都合があれば、私がカバーする。そんな気持ちでステージの後方にいるという。

後輩は、先輩の思いやりを感じて感激し、それが継承されて「伝統」となる。アカペラを始め、練習を積み重

ねるといつしか意識は「社会の一員、組織づくり」へと繋がっていくようだ。

## ステージに立つには

「B'b」は珍しい7人編成である。男子3人、女子4人でリード、コーラス、ベースを担当する。「ウリ」は男女ツイン・ボーカル。

最近では男性グループ、女性グループと編成が2極化されている。混声グループが珍しいのは、男女の声を重ねる難しさがあるからだ。

アカペラは「楽器演奏なし」だから、自分たちの音感を信じ、自分たちで奏でる。独学・独力・独立の精神が鍛えられていく。機械化・合理化が当たり前の中であって、手づくりのよさ、温かさが聴く人の胸にしみわたる。

白門祭に向けて、サークル恒例のオーディションが熾烈だった。歌姫といえども「出演希望者の一人」の扱いだ。

全部で140曲の応募があった。曲が変わるとメンバーが代わる。140曲

# ACAPPELLA 中大の歌姫 坂本沙織

を歌うならば、グループは曲に合わせた最大140通りの人員編成となる。坂本さんも編成メンバーを変えながら12曲をエントリーした。

ステージに立つためには、部員同士による音源審査が3日間あり、ここをクリアしなければならない。「みんな、ピリピリした雰囲気になります」と坂本さん。全国でも屈指のハイレベルな中大。レギュラー目指しての部内競争が激しい。

## 島人ぬ宝

坂本さんのスタートは芳しくなかった。「ピッチ感がぶれている、だから安定しない、とよく注意されました。合唱部出身者はぶれませんか」と入部のころを話した。

実は音楽経験がなかった。小学校でバレーボール、中学・高校ではソフトテニスをしてきた。腹筋・背筋はここで鍛えられた。体力があって、声量があって、ないのがピッチ感だった。「どうしたらいいか分からなくて、ひたすら好きな歌を歌っていました」

練習の成果が徐々に出了。ピッチ感をたえず意識していたのだろう、2年目になって「安定してきた、と言われました」

心技体とそろった。楽しくてしよう

がない。「毎日練習しています」「いつも歌っています」。歌うことが日課になり、練習量が増えていった。

「正確に音を出すことも大切ですが、私は聴いてくれる人に“魅せる”ことを大事にしたい。目標とした先輩がいました」

先輩とは男子のコーラス担当。合唱経験があり、正確な音を奏でた。それ以上に曲にそった表情・感情を前面に出して客席の心をとらえていた。

「君も“もっと魅せろ”と言われて。以来意識するようになりました」転機は2年次の夏だった。「目立たなきゃ、恥ずかしがってはいけない。自分に酔うくらいでいい」と

以来メーンを張る。魅せるステージを心がける。よく歌う『島人ぬ宝』(BEGIN)では編曲もした。口笛や



掛け声を加えた。

この曲では一步下がって、メンバーを引き立てる。それでも坂本さんはうれしそうだ。ハーモニー、協調、チームワーク、喜びの顔…。歌うにつれて気持ちと歌詞が重なっていく。アカペラをやっていてよかった。

♪教科書に書いてあることじゃ分からない 大切なものがきっとここにある♪ (島人ぬ宝)

## アカペラとは

小人数による無伴奏合唱。もともとはイタリアの教会音楽で「アカペラ」(A CAPPELLA)と礼拝堂を意味した。英語でカペラはチャペルを意味する。管楽器も打楽器も人の声で表わす。リード&コーラスとの協調ができると、人の声が幾重にも重なって、客席を魅了するハーモニーが生まれる。

## 「B'b」メンバー

リード・コーラス	坂本 沙織(文3)
同	早川 修平(文4)
同	山下 茜(法3)
コーラス	山本 菜穂(文3)
同	鹿内 宥作(法3)
ベース	島巻大二郎(商3)
パーカッション	武本 加織(文3)

## Do it your voice!

創立15年、部員数132人、練習は1チーム週2コマ程度(オリジナルサイトから)



## NHKラジオに出演

坂本さんらは、NHK土曜日の人気番組『キャンパス寄席』(午前10時5分～11時)に出演し、7月27日に放送された。会場のCスクエアで1曲歌うと、司会のサンドウィッチマン・伊達さんが「感動した。全部クチでやってんだよ」と言えば、富澤さんが「アカペラですから」と突っ込んだ。

番組の企画コーナーでは、ステージでのチーム紹介の仕方を相談。「○○○のDo it your voice!です」。あいさつの冒頭に何が相応しいか。「週末ヒロインの～」「カラーリング自慢の～」。なかでも坂本さんが青いパンツをはいていたことから「青パンツ はきこ」といった珍回答が出演中のお笑い芸人から続出した。メンバーには楽しい8分間の出演だった。